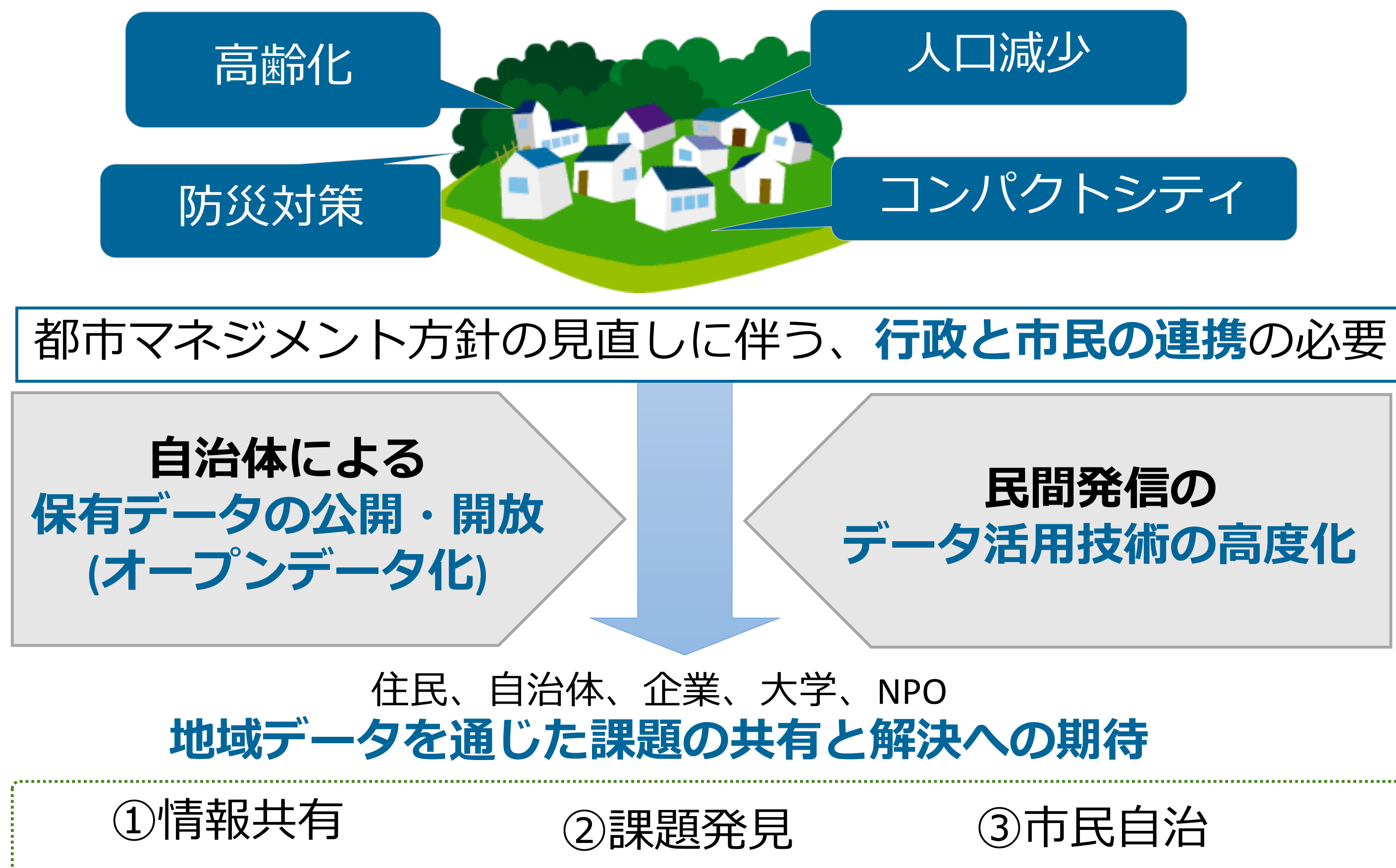


行政と市民の協働に向けた 都市の将来像可視化システムの開発

研究の背景

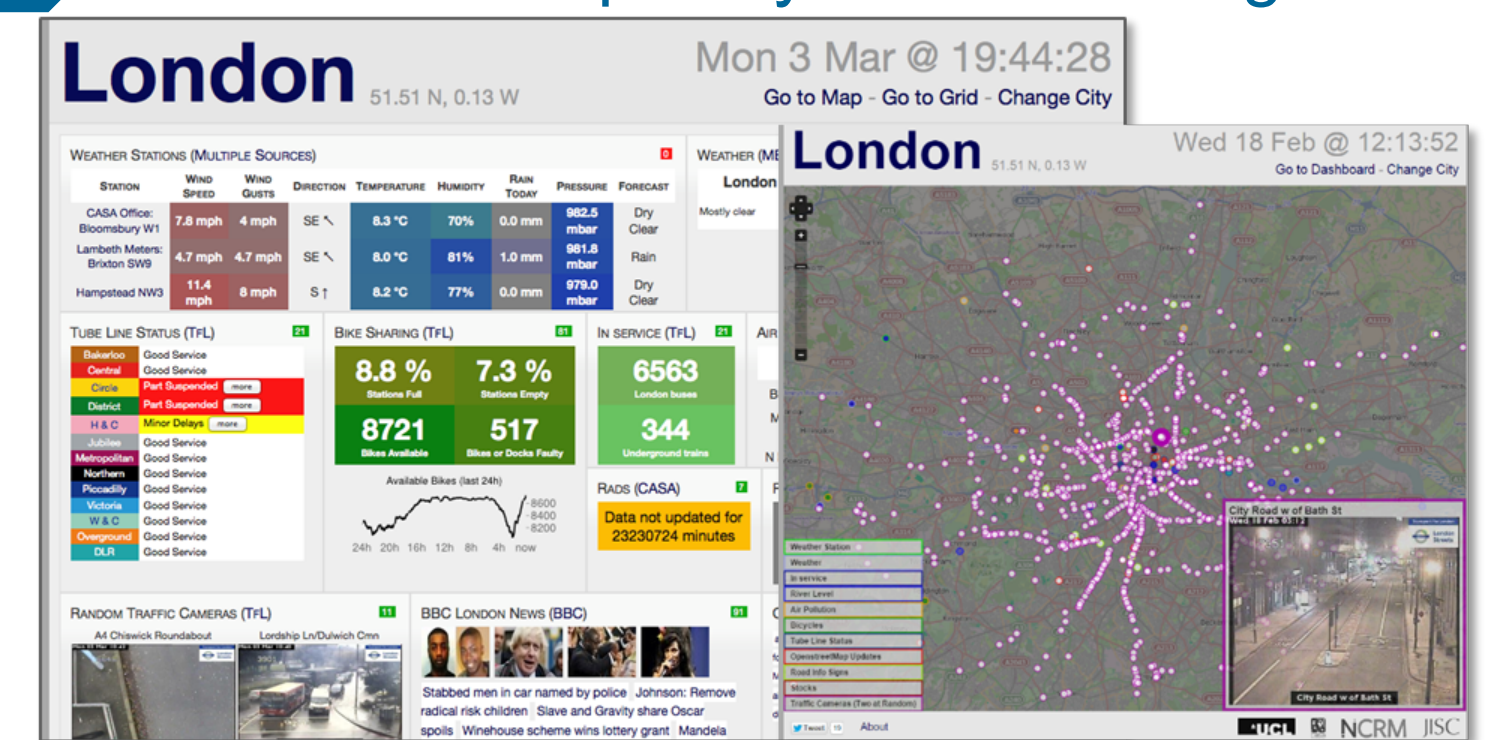
長谷川瑤子、関本義秀、瀬戸寿一、福島佑樹、前田翠、小俣博司
東京大学 生産技術研究所、東京大学空間情報科学研究センター



先行事例

- 都市のリアルタイムデータを可視化
- データを活用した都市全体像の俯瞰

<http://citydashboard.org/london/>



<https://openspending.org/>

- 予算歳出データ → 税金の用途配分を可視化

横連携を可能とするプラットフォーム



課題と目的

国内の地方自治体で、地域データを十分に活用できていない現状

行政

- 人員・技術力の不足
- データ分析やシミュレーションへの高いハードル

住民

- 都市計画関連情報への低い関心・認知度
- 身近な範囲に留まる興味

不十分
説明
意見・評価

情報の可視化技術の提供によって、行政と市民間のコミュニケーションを活性化できる可能性

<目的>

オープンデータを活用した都市の将来像可視化システムを開発し、行政と市民が協働したまちづくりに向けて発揮される効果を検証する

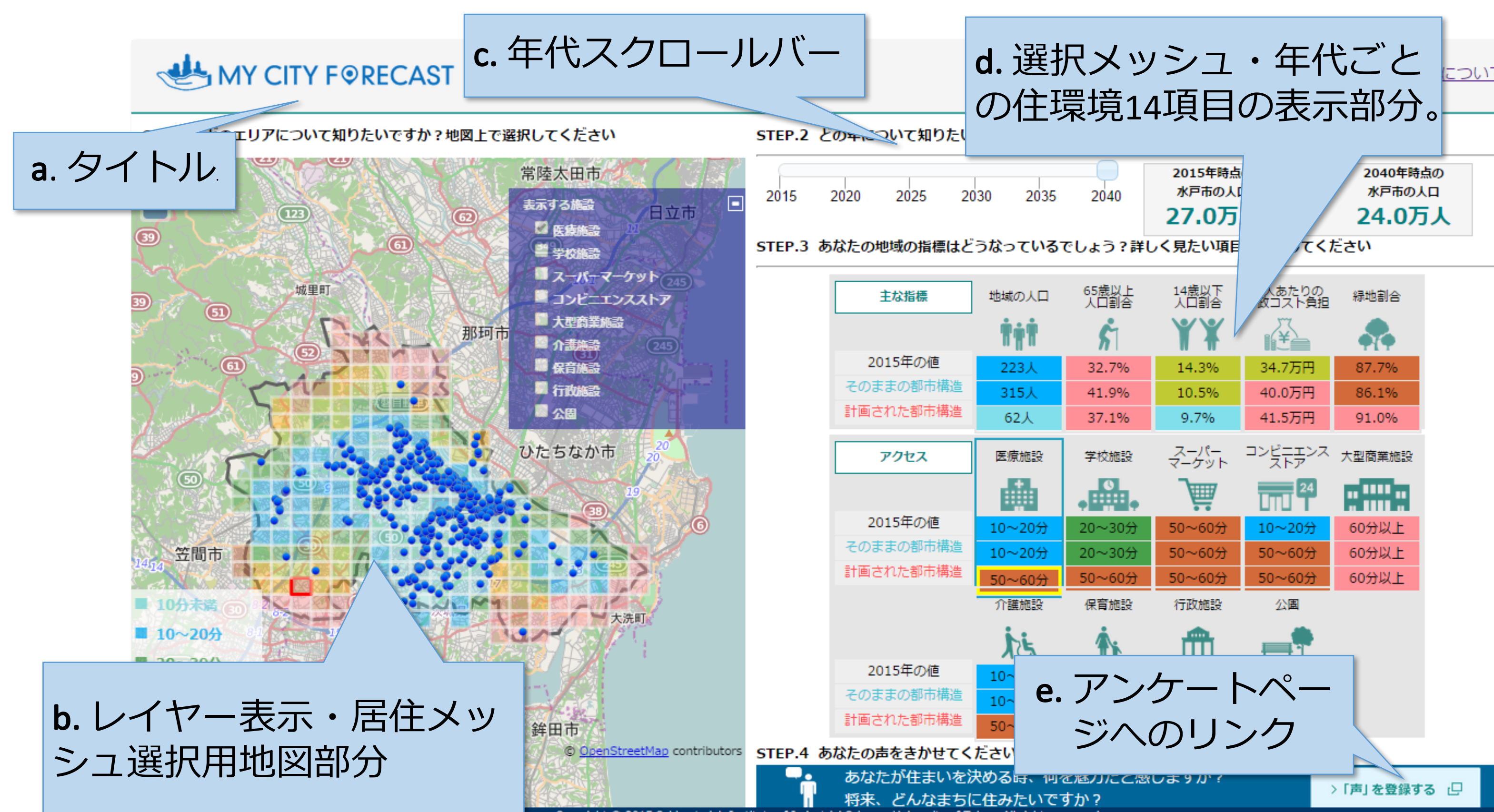
内容

- Webアプリ“MyCityForecast”の開発
- 効果の検証
 - ワークショップの実施
 - 市民態度への影響分析

都市の将来像可視化システムMyCityForecastの開発

既往のオープンデータをもとに、2040年までの都市構造の変化をシミュレーションした結果を市民に身近な指標で表示するツール

<http://mycityforecast.net/> (公開中)



- 全国1670の自治体に対応
- カスタマイズ機能で設定できる項目

